

未来 ネットワーク 通信

ひがの義幸
県政だより

2022.12

とちぎを守る。命を守る。

ひがの義幸

の県議会活動

一般質問

県民の命と暮らしを守る

災害に強いとちぎを



日向野義幸議員

本県は、今年7月から新型コロナウイルスの第7波と豚熱で、経験したことのないレベルの危機事象が発生しました。

また、令和元年東日本台風を超える豪雨災害がいつ発生してもおかしくない状況にあり、首都直下地震などの大規模地震発生が現実味を帯びています。

さらに、猿痘など新たな感染症の流行、ロシアのウクライナ侵攻や、中国、台湾の緊張関係などの世界情勢、加えて、世界的な物価高騰も「危機事象」と考えます。

「県民の命と暮らしを守るため」、万全な体制確保にどのように取り組むのか、また、「総合防災拠点」をどのように整備していく方針なのか知事に伺います。

次年度に危機管理防災局を新設 総合運動公園を総合防災拠点に

▼福田富一知事 危機事象が頻発化し、災害の激甚化が憂慮される中、県民の生命、財産を守るため、迅速かつ円滑な情報共有や連携が重要であり、それらに対応できる執行体制の整備が急務と考えます。次年度には「危機管理防災局」を新設し、総合調整力の充実に努めます。

大規模災害発生時の的確な被災地支援の役割を担う「総合防災拠点」は、救援物資の積りや応援部隊の活動拠点機能が必要であり、「県総合運動公園を総合防災拠点」に位置づけ、各種機能が効果的に発揮できる体制確保を進めます。

総合防災拠点には、先進技術を取り入れた「防災学習教育施設」を整備します。

県民の先頭に立って働く

近年、世界中で地震、風水害などの自然災害や新興感染症などが頻発しています。

しかも、地球温暖化やグローバル化の影響でその被害は甚大化する中、本県でも平成27年関東・東北豪雨、令和元年東日本台風により甚大な被害を受け、多くの県民が命と暮らしを奪われました。

その復興の最中、今度は、新型コロナウイルス感染症と言ふ目に見えない大きな敵が県民の暮らしを壊していきました。

多くの県民の皆様は、災害と新興感染症に翻弄されながらその苦しみの中、国や県、市町の行政機関に救いを求めています。

その想いに、その現状に「しっかり」と応えられる国や県、市町であって欲しいと願うばかりであります。

市町の災害対応力の充実・強化は



日向野義幸議員

知事の選挙公約「県民の命と暮らしを守るため」市町の災害対応力の強化、底上げを図る責務があります。国の動向等も注視しながら、市町や地域の実情に応じた支援の「充実・強化」にどのように取り組むのか伺います。

▼福田富一知事 自然災害が頻発、激甚化している中、自治体では、公助に加え、住民や地域が自主的に取り組む「自助・共助」を促進する役割など、業務が多岐にわたります。市町の特性や組織体制に違いのある中でも、市町の声をしっかりと受け止め、災害対策に取り組むことが県の役割と考えています。

今後は、市町の避難指示の発令や避難所運営等の充実を図り、国が進める防災DXも注視しながら、効果的なデジタル技術の活用等に取り組み、市町と連携して、「災害に強いとちぎづくりを推進」します。

クラウド型被災者支援システム導入の促進を



日向野義幸議員（再質問）

令和4年度から住基データをベースとした被災者台帳の作成や、罹災証明書等のオンライン申請、避難所運営の効率化や、要支援者個別避難計画の作成支援などに活用できる「クラウド型被災者支援システム」の運用が開始されました。

市町のクラウド型被災者支援システム導入促進に、どう取り組むのか県民生活部長に伺います。

▼野原恵美子県民生活部長 クラウド型被災者支援システムは、被災者側、行政側、双方にメリットがある有用なシステムです。

県としては導入財源、システム利用のメリット等を説明しながら、市町との情報交換を行います。

栃木県議会議員 日向野義幸

避難行動要支援者個別 避難計画策定の推進を



日向野義幸議員

東日本大震災では、死亡者の6割以上が60歳以上の高齢者であり、さらに、障害者の死亡率は住民全体の死亡率の約2倍でありました。災害時に支援が必要な高齢者や障害者などの要支援者について、「いつ、どこへ、誰と、どうやって逃げるのか」といった「避難行動要支援者個別避難計画」の作成が重要です。

国は、計画の作成を令和3年から5年程度を目途に取り組むよう自治体に要請しました。県としても、「避難行動要支援者」が迅速に避難できるよう、市町の支援に取り組むことが必要と考えます。どう取り組むのか保健福祉部長に伺います。

▼**仲山信之保健福祉部長** 個別避難計画の作成は、24市町が着手済みとなり、残る1町も今年度内には着手の見込です。

計画作成には、個人情報提供の同意取得、作成に携わる人材、避難支援者の確保、そして、計画の実効性担保が課題です。

引き続き、計画作成の必要性を県民に周知し、計画作成の一層推進と計画の実効性が高まるよう市町の取組を支援します。

災害時の医療提供体制の確保は



日向野義幸議員

新型コロナウイルス感染症の第7波に伴い、本県の医療提供体制はかつてない深刻な状況です。「災害拠点病院等」のすべてが県の三次救急や二次救急を担い、救急医療の核となっています。

全ての病院で通常診療との両立が困難な状況にあります。

このような状況下に、大規模な自然災害が発生した場合に医療提供体制が正常に機能するか危惧しています。

こうした事態の体制確保がなされているのか保健福祉部長に伺います。

また、「国のDMAT活動要領の改正」に伴う、DMATやLDMAT隊員の養成、技術向上の推進、災害拠点病院の機能強化にどのように取り組むのか伺います。

感染症と自然災害の同時発生に備え 医療提供体制の機能強化に取り組む

▼**仲山信之保健福祉部長** 大規模な自然災害を想定し、災害拠点病院の機能強化や広域搬送体制の確保など、医療提供体制を構築してきました。

今般の第7波による医療逼迫は、想定をはるかに上回るものとなったことから、感染症と自然災害の同時発生も想定し、医療提供体制の強化に取り組む必要があると考えます。

そのため、DMATのさらなる養成に取り組みとともに、人工呼吸器、簡易陰圧装置等の整備を促進するなど、災害拠点病院の機能が發揮されるよう取り組みます。

災害時の適応力強化と脱炭素化に 自立・分散型エネルギーの導入を



日向野義幸議員

災害時の停電の問題は深刻であり、自立したエネルギーを確保し地域内で活用可能とする必要があります。県では、「地域電源供給拠点」の整備に取り組んでいます。私は、太陽光発電設備、蓄電池の整備、そして、地域マイクログリッドの構築を両輪として、市町や民間事業者と連携して取り組んでほしいと考えます。

「災害時の適応力強化と脱炭素化」を同時に実現する「自立・分散型エネルギーの導入促進」にどう取り組むのか環境森林部長に伺います。

また、「新とちぎ産業成長戦略」では、令和7年度までに200ヘクタールの産業団地の整備を目標に掲げていますが、自立・分散型エネルギーを活用した産業団地の整備にどう取り組むのか産業労働観光部長に伺います。

▼**小野寺一行環境森林部長** 自然災害が頻発、

日向野プロジェクトチームの活動

令和4年6月に日向野義幸後援会総連合会の総会が栃木市文化会館で開催され、プロジェクトチームから活動報告がありました。報告概要はつぎのとおりです。

〈会議概要〉

準備会議（令和元年10月30日）では、太平山再開発、東武JR直通電車構想、そして、栃木市治水対策の3プロジェクトチームの立ち上げとリーダーの決定。リーダーは青年部役員から選抜。

第1回から第4回までの会議は各プロジェクトの活動方針及び具体策の検討。第5回から第21回までの会議は、活動計画策定と調査活動、および、報告書の作成。



プロジェクトの発表

日向野義幸後援会プロジェクトチーム会議の履歴

開催日		開催日	
第1回	令和2年 1月 29日	第12回	令和3年 2月 24日
第2回	令和2年 2月 26日	第13回	令和3年 3月 24日
第3回	令和2年 4月 6日	第14回	令和3年 4月 22日
第4回	令和2年 5月 27日	第15回	令和3年 5月 26日
第5回	令和2年 6月 24日	第16回	令和3年 6月 23日
第6回	令和2年 7月 29日	第17回	令和3年 8月 4日
第7回	令和2年 8月 27日	第18回	令和3年 10月 8日
第8回	令和2年 9月 30日	第19回	令和3年 11月 24日
第9回	令和2年 10月 29日	第20回	令和4年 1月 25日
第10回	令和2年 11月 26日	第21回	令和4年 4月 27日
第11回	令和3年 1月 27日	第22回	令和4年 5月 26日

栃木市の流域治水調査活動 氾濫防止に「田んぼダム」が有効

令和元年10月台風19号の豪雨で栃木市は広域で甚大な被害を受けました。

「とちぎを守る」というスローガンのもと、このような被害を最小限に抑えるにはどうするかを検討してきました。

河川工事などの土木事業より簡単に設置、管理、運用ができる方法として「田んぼダム」に注目しました。「田んぼダム」とは、田んぼの保水力を活用して、大雨時に田んぼに雨水をためて、河川の水位が下がり始めたなら放流することで河川への流入を時間差で調整して氾濫の可能性を少なくするシステムです。

令和2年8月、「栃木市街の巴波川氾

濫防止に田んぼダム」として大川栃木市長に提言書を提出しました。これをきっかけに令和3年度は栃木市、栃木県ともに実証実験を予定され、その実験が農林水産省の事業に採択されるなどの成果を上げました。



大川市長に提言書提出

今後の取り組みとしては、栃木県の永野川の12kmにおよぶ堤防の嵩上げと河道の掘削工事と栃木市大町から沼和田町の捷水路工事の展開に注目し、「田んぼダム」の検証状況をご報告ができるようにと考えております。

（文・小藤有彦）

激甚化する中においては、地域内で活用可能な自立・分散型エネルギーの導入が重要です。事業所の自家消費型太陽光発電・蓄電池導入支援に加え、家庭用太陽光発電も、導入促進の方策を検討しています。栃木市、日光市、那須塩原市をモデル事例とした「脱炭素先行地域創出」の取組を進めており、市町や民間事業者との連携を図りながら自立・分散型エネルギーの導入促進に取り組めます。

▼辻 真夫産業労働観光部長 県では、産業団地の整備に取り組んでいます。選ばれる産業団地とすることが重要です。

企業は、カーボンニュートラル実現に向けた取組が不可欠で、再生可能エネルギーを活用できる産業団地の整備は、企業誘致に強力なインセンティブになります。

今年度は実現に向けた課題や導入の可能性を調査します。調査結果を踏まえ、先進事例なども参考にしながら、適応力強化と脱炭素化を実現する産業団地の整備に取り組めます。

防災重点農業用ため池の改修促進で農村地域の防災・減災対策の強化を

日向野義幸議員

県内の受益面積100ヘクタール以上の「基幹的農業水利施設」は、施設の劣化や機能低下による災害リスクが懸念され、「防災重点農業用ため池」の改修促進も急務です。

栃木市では、河川の改良復旧工事と併せて、「田んぼダム」の面積をこれまでの2倍に拡大し、ICTを活用した実証実験を行うなど、先進的に取り組んでいます。

田んぼダムや農業水利施設等の活用による「雨水流出抑制」に積極的に取り組む必要があると考えます。

「持続的に発展する農業・栃木」を目指し、



与良川統合排水機場

農村地域の防災・減災対策の強化にどのように取り組むのか農政部長に伺います。

▼青柳俊明農政部長 農業水利施設は、全ての基幹的施設を対象に「機能保全計画」を策定し、先進技術も取り入れながら、長寿命化対策を進め、防災機能の強化を図ります。「防災重点農業用ため池」は、緊急度を考慮した防災工事を計画的に進めます。

「雨水の流出抑制」は、田んぼダムなど、効果的な取組が広域的に実践されるよう、まずは優先度の高い思川流域を対象とする「推進方針」を今年度中に策定します。

方針策定後は、市町や土地改良区等と連携し、県内全域に広めてまいります。

災害時の学びの保障に教育関係者間の連携を

日向野義幸議員

令和元年東日本台風では、県内38校が被災し、学校再開まで最長13日を要した学校もあったことから、私は、子供たちの学びの保障のため、「被災後に学校教育の早期再開」が重要と考えます。

学校では、児童生徒の安否や、被災状況確認などの初期対応から、心のケアなど、教員が担う業務は多岐にわたります。学校が避難所になれば、避難所運営への協力も必要で、教員の負担は重くなり外部の支援が重要です。

県内、どの地域が被災しても「教育関係者がカバーし合える体制の確保」に教育委員会としてどう取り組むか教育長に伺います。

▼阿久澤真理教育長 災害では、被災した学校へ支援の教員やスクールカウンセラーを派遣し、学校教育の早期再開に努めました。

東日本台風では、学習環境が整うまでの間、他校での授業を行い、コロナ禍の非常時においても、オンライン学習が行えるよう、学校教育のICT化を図ってきました。

今後も、研修等を通じ、災害対応に精通した教職員の育成を図り、子供たちの学びの保障に努めてまいります。

未来を開くお役立ち電車実現へ

令和2年にJRが東京駅と羽田空港を結ぶ新路線「羽田空港アクセス線構想」を発表しました。

このプロジェクトは東武線、両毛線からその新路線に直通電車を走らせ、これまでの複数回の乗り換えなしで、東京駅や羽田空港まで行く利便性を高める構想です。

令和2年9月に会員の皆様に配布・意見記入でお世話になりましたアンケートは、1,511枚で、多くの期待や要望があり、今後の栃木市発展のための重要な案件



茂木自民党幹事長訪問

だと確信しました。回答者は、男女比3:7、年齢層は20歳以上の方がほぼ均等で、会社員が6割以上を占めていました。「乗り換えなしで東京駅や羽田空港に行けるのが良い」、「東京駅まででも早く開通して欲しい」、「インバウンドで栃木市の活性化に期待する」など実現への期待が膨らんでいます。

結果を集計して、令和3年7月に大川栃木市長に要望書と調査資料を提出、県南市長会で早川足利市長、金子佐野市長にご説明し、「ご賛同をいただいた」とのことです。

9月には粉川日光市長を表敬訪問のうえ内容を説明し、ご賛同いただきました。令和4年1月茂木自民党幹事長を表敬訪問し、要望書を提出しました。今後は、栃木県レベルでの活動に発展させたいと考えています。(文 平野和正)

少年自然の家跡地を駐車場に

これまでの活動から、雑木の手入れをして美しい景観を取り戻すことや、参拝者を市内観光に呼び込む施策の検討などの問題点が見えてきました。

問題点から、道幅と駐車スペースの確保をすることが最優先事項であると考へ、令和3年6月、専門業者による現地検証を行い、11月には調査結果の報告がありました。

報告では、太平山は急傾斜地が多く、道路拡幅には大規模な盛り土や法面工事が必要となる。駐車場も多額の工費を要する半面、確保できる駐車場面積が少なく、自然景観を阻害する恐れもある。

太平山神社付近の道路沿いに駐車場の新増設をするよりも「太平少年自然の家

跡地」及び、栃木市の所有地活用が、早期解決につながるものと思われれます。特に、太平少年自然の家は都市公園区域で、国有地のため、整備は容易と思われれます。

令和4年6月、調査結果を踏まえ、大川秀子栃木市長に太平少年自然の家の駐車場整備についての意見書を提出させていただきました。前向きに検討させていただきます。

今後とも「太平山プロジェクト」の支援よろしくおねがいします。(文 楠奥宗人)



太平山神社 小林宮司と懇談

美幸会研修旅行開催

県議会議事堂見学と純烈コンサート鑑賞

令和四年十月六日(木)

未だ収束のできない新型コロナウイルス感染症。社会の動向と共に、当会の事業もできない状況でしたが、会員に背中を押され日帰り研修旅行を企画し実現することが出来ました。

県議の配慮から、議会棟の階段に敷き詰められた赤いじゅうたんの上で、バスの号車ごとに笑顔の記念写真撮影。それから普段経験のできない県議会議事堂内を見学。椅子に座り、県議会議員や知事・教育長になった気分を味わうことができました。

昼食は、結婚式場を付帯している場所なので、素敵な背景の会場でした。県議の活動報告とあいさつを拝聴した後、リッチな気持ち

で食事に舌鼓。宇都宮市文化会館に移動し、純烈のコンサート。コロナ禍で諸々の規制はありましたが一人ひとり大いに盛り上がり楽しんだと推察します。

久方ぶりの集まりに会員同士の親睦を図ることができ、県議との絆も深いものになったと思います。

ウイズコロナ時代と言われ、生活様式も変化する中、女性の持ち合わせているしなやかな視点と体験・経験を活かして、今後の事業展開に活躍して下さることを望んでいます。更に、自分にできること、会員増強など、県議を支援していただけることを願っています。

(文・美幸会会長 川津 美知子)



町進記

人形山車に歴史を思う

令和四年(二〇二二)十一月、コロナ禍で中止を余儀なくされていた「とちぎ秋まつり」が四年ぶりに開催された。この祭りは明治七年(一八七四)の神武祭典が起源で、江戸山王祭由来の江戸型人形山車が大通りを練り歩く。万町一、二、三丁目の山車はいずれも明治二六年(一八九三)の制作。それぞれ戴く人形は、

万町一丁目 天照大神

万町二丁目 日本武尊

万町三丁目 素戔鳴尊

この他、倭町二丁目は神武天皇、嘉右衛門町は仁徳天皇である。いずれも古事記・日本書紀の世界の人物・神々だ。栃木の先人はなぜ、そうしたのだろうか。

大東亜戦争前ならおそらくそれぞれの天皇・神々について家庭でも学校でも普通に語られてきたに違いない。私の小学校(一九六〇年代前半)の先生の中には、
神武・綏靖・安寧・懿徳・孝昭・孝安・孝霊・孝元・開化・崇神・垂仁・景行…
と当時は昭和だから一二四代の天皇の名を諳んじることのできる先生がいらした。学校で覚えたのだという。しかし、GHQが神道、神話、天皇に関する教育を禁止、一部の勢力がその尻馬に乗って、そうした教育はなされなくなり、結果、語られなくなった。

歴史学者アーノルド・J・トインビーは、「自国の歴史を忘れた民族は滅びる」と言っている。

子供まつり、山車を引くのもいい経験だが、戴く人形についても学んだ方がいいだろう。この国が、日本民族が減びないように。

(申丸)



万町3丁目の山車 素戔鳴尊

後援会からのお知らせ

日向野義幸後援会総連合会恒例の「総会」と「新春の集い」を次のとおり開催しますのでお知らせします。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

期日 令和5年2月11日
(建国記念の日)
場所 栃木市片柳町「サンプラザ」

編集・発行 ひがの義幸後援会総連合会
発行日 令和4年(2022)12月20日
編集発行責任者 高田 良久
事務局 〒328-0075 栃木県栃木市箱森町7-9
TEL 0282-23-8855 FAX 0282-23-8856
E-mail info@higano.jp

■ひがの義幸 ホームページ・ツイッター アドレス
H P www.higano.jp
Twitter https://mobile.twitter.com/yoshiyukihiigano

未来
ネットワーク
通信

2022年12月号